2026 年 5 月 20 日作成　Ver.1.0

≪情報公開文書≫

生体肝移植における過小グラフト症候群発症の予測因子に関する多施設共同研究

研究の概要

【背景】
生体肝移植において比較的小さな部分肝を移植した際、移植した肝臓が十分に機能せず、移植後に腹水が遷延したり黄疸が持続したりすることを過小グラフト症候群と呼びます。過小グラフト症候群は時にグラフト不全や患者死亡に至る重篤な合併症です。しかし、過小グラフト症候群発症の予測因子に関しては十分な解析が行われていません。

【目的】
生体肝移植後の過小グラフト症候群の発生状況を含めた術後成績を各医療機関から集めて解析することにより、過小グラフト症候群発症の予測因子を明らかにし、そのリスク回避のための対策を提唱することを目的とします。

【意義】
本研究により解析したデータを広く報告する事で将来に向けての生体肝移植成績の改善を行う事ができると考えています。

【方法】
長崎大学病院、熊本大学病院、琉球大学病院で施行した生体肝移植症例の情報を集め、解析を行います。

対象となる患者さん

2000 年 1 月 1 日から 2029 年 12 月 31 日までの間に各研究機関で生体肝移植を行った患者さん。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報
下記の情報を診療録より収集します。

●利用する情報
① レシピエント情報
② 原疾患
③ Chil-Pugh スコア、MELD スコア
④ 既往歴、生活歴、家族歴、

⑤　血液学的所見
⑥　ドナー情報
⑦　グラフト情報
⑧　手術所見
⑨　術後有害事象内容
⑩　術後在院日数
⑪　術後経過・合併症の有無
⑫　過小グラフト症候群の有無とその重症度
⑬　予後

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日／提供開始予定日

本研究は研究機関長の許可日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。
ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。
あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2030 年 12 月 31 日

研究実施体制

研究代表者	所属：長崎大学病院　肝胆膵・移植外科 氏名：江口　晋 住所：長崎県　長崎市　坂本 1－7－1 電話：095（819）7316
共同研究機関／研究責任者	この研究は長崎大学病院を中心に九州・沖縄の３機関で実施します。 詳しい研究機関についてお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。 熊本大学病院　小児外科・移植外科　菅原寧彦 琉球大学病院　消化器・腫瘍外科　高槻光寿
長崎大学病院における 情報の管理責任者	長崎大学病院　病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

熊本大学病院 小児外科・移植外科 医局

菅原　寧彦、冨田　真裕

〒860-8556 熊本県　熊本市　中央区　本荘 1-1-1

電話：096 (373) 5616　　FAX　096 (373) 5783

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：096 (373) 5629

受付時間　　：　月～金曜日　8：30～17：15　祝祭日除く